地域子どもネイチャーゲーム教室の現状と未来

降旗信一（社団法人日本ネイチャーゲーム協会・鹿児島大学）、藤田航平（社団法人日本ネイチャーゲーム協会）

はじめに

「地域子どもネイチャーゲーム教室」（以下、「地域教室」という）は、文部科学省委嘱ＣＯＮＥ地域子ども教室事業の一環として2004年度から2006年度の３年間の継続事業として実施されてきた。日本ネイチャーゲーム協会では、これまで「全国一斉自然とふれあうネイチャーゲーム大会（1992年-2005年）」、「子どもネイチャーゲーム促進フェア（子ども夢基金助成事業として2001年度より実施）」など、地域の公園などでのネイチャーゲームをはじめとする自然体験活動事業を実施してきた。一方、「地域教室」では、「子どもの居場所」として開催場所が固定され、また年間の開催日数も従来の事業と比較すると高い頻度で実施されており、地域の自然と子どもたちとの関係性を深めることが期待されてきた。事業三年目となる本年度は、最終年度としてこれまでの成果と課題を確認する年となるが、すでにこの事業への高い評価と継続を望む声も寄せられており、国の補助金終了後もこうした趣旨の事業を継続させるための方策が求められている。こうした声を受け、「地域教室」事業を持続的に展開する方策を探るため、筆者（降旗）らは、2006年４月より研究者や指導者組織の協力を得ながら試験的な事業を開始した。本稿では、本事業の趣旨と概況、これまでの成果と課題を整理し、本事業の継続的実施に向けた試験的取り組みのための構想について報告したい。

1. 地域子どもネイチャーゲーム教室の趣旨

「地域教室」は、「未来の日本を創る心豊かでたくましい子どもを社会全体で育むため、学校等を活用して、安全・安心な子どもたちの居場所（活動拠点）を設け、地域の大人を指導員として配置し、放課後や週末におけるスポーツや文化活動などのさまざまな体験活動や地域住民との交流活動を支援する（2006年度「地域子どもネイチャーゲーム教室」運営マニュアルより）」ことを趣旨とし、年間を通じてすることによって子どもが安心して、そして安全に遊ぶことのできる居場所を作ることを目的としている。この事業の母体となっているＣＯＮＥ地域子ども教室事業では、一定の知識と技能をもつＣＯＮＥ指導者が、様々な自然体験活動を地域の子どもたちに提供することを趣旨としている。ＣＯＮＥ事業の開催箇所のうちネイチャーゲーム関係の会場数は全体のおよそ３割強に達している。

2. 地域子どもネイチャーゲーム教室の成果

2004年度は33教室が月１回程度（半年で６回）の教室を開催し、2005年度は文部科学省からの開催回数増の要求を受け、一教室あたり30回を目標に実施し60教室が開催された。2006年度は文部科学省が示す目標回数24回を目指し、59教室が開催もしくは開催に向けた準備に取り組んでいる。（表1）

各教室からあげられた報告によると、2004年度は全教室で4000人近い子どもたちが「地域教室」に参加していることがわかる。また2005年度は2004年度と比べ教室数が２倍、開催回数が５倍となったが、参加者数は10倍以上に増えており教室数、開催数の変化以上の増

加が見られた。これは子どもの居場所事業の認知が高まり参加者増につながったと同時に、子どもの居場所事業が地域のニーズに応えられる事業を展開していることが考えられる。

地域子どもネイチャーゲーム教室の実績と2006年度の計画（表1）

	教室数	平均開催回数	平均参加子ども数	おおよその総参加者数
2004年度	33	6.0	19.7	3900
2005年度	60	28.8	30.4	48000
2006年度（予定）	59	24.2		

3. 「地域教室」の課題とその背景

「地域教室」では、各地で様々な成果が報告されている一方、補助金終了後を見越した継続性を考えると資金に関すること、人材確保に関することなど様々な課題も明らかになってきている。こうした課題を総括的にとらえると、「地域教室」の課題は地域における本事業の運営基盤の問題に集約されると考えられる。「地域教室」は、国の事業としては2004年度当初予算に盛り込まれる形でスタートしたが、この予算は国から各都道府県教育委員会、自治体教育委員会を経て各地域へ、という通常の教育予算の執行ルートを経由していたため団体が地域における事業実施の受け皿となる可能性は少なかった。ところが、このルートで募集した事業実施希望地域が予算上の想定箇所数に対し大幅に少なかったことから、年度途中の2004年6月になって急きょ、文部科学省所管の青少年団体等に対しても事業への参加が認められた。こうして2004年6月から7月にかけて、各団体の地域組織に募集案内が告知され9月から事業が開始された。このような経緯を経たため、当初は各団体の地域組織にこの事業の趣旨が十分に伝わらないなどの課題も表面化したが、ネイチャーゲーム関係組織に絞ってとらえると、もともと本事業開始の時点で「地域で子どもの自然体験活動を組織的継続的に展開する」ことを主目的とした組織体制が十分ではなかったたことが最大の課題ではないかと考えられる。日本ネイチャーゲーム協会には、「地域ネイチャーゲームの会」という地域実践組織が各地で活発な活動を展開しているものの、この会は「3名以上のネイチャーゲーム指導員によって設立される」ものであり、「青少年を主たる構成員とした組織」とはいえない。では、なぜ地域ネイチャーゲームの会は、このような指導者中心の組織体制になっているのだろうか。そこで次節では、地域ネイチャーゲームの会制度の成立の経緯のふりかえってみたい。

4. 「地域ネイチャーゲームの会」制度開始の経緯

「地域ネイチャーゲームの会」の制度が開始されたのは1993年である。（「ネイチャーゲームでひろがる環境教育」、降旗信一、中央法規出版、P83-86、2001）　この制度は、ネイチャーゲーム実践の場づくりの必要性から企画された「第一回全国一斉・親子で楽しむネイチャーゲーム大会」を各地域で日常的に開催していくことを目的としたものであった。ここでの「ネイチャーゲーム実践」とは、ネイチャーゲーム初級指導員養成講座の修了者たちが各地域で子どもや一般市民を対象にネイチャーゲーム指導を行うことであり、講座を修了し

た指導員たちにいかに実践の場を用意するかが当時の普及上の最大の課題とされていた。このような背景の中で、「地域ネイチャーゲームの会」が「３名以上のネイチャーゲーム指導員によって設立される」という指導者を中心的な構成員とした組織制度となったのである。このような指導者中心の組織であったがために、「地域ネイチャーゲームの会」では、たとえば「出前講座」のように多様な参加者を求めて、参加者（あるいは依頼者）のニーズに合わせる形で、柔軟に指導の場所やプログラムを変更することができた。一方、子どもたちを直接会員組織としてもたないことから、例えばボーイスカウト・ガールスカウト運動のような従来の青少年団体と比較すると「特定のフィールド」「特定の子どもたち」との強い結びつきをもつ会は少なかったと考えられる。

今日、地域ネイチャーゲームの会は全都道府県に設立され、その活動も当初の目的であった「ネイチャーゲーム実践の場づくり」のみならず様々な地域づくり活動に発展している組織も少なくない。1997 年の社団法人化やその後の各都道府県協会の組織運営に地域ネイチャーゲームの会が果たしてきた役割を考えると 1993 年の時点で指導者を中心的構成員とした組織づくりを進めた事は合理的な選択だったといえる。

5. ユーザー組織としての「地域教室」推進組織の可能性

前節でみてきた指導者中心組織的な性格をもつ地域ネイチャーゲームの会は、今後も指導者組織としての重要な役割があると考えられる。その一方で、「自然と共生する持続型地域社会の創造（ネイチャーゲーム２１世紀ビジョン）」の実現に向けた具体策でもある、（地域の）自然と子どもたちとの関係性（つながり）を深める、という観点からは既存の指導者組織とは別の性格をもつ、子ども（市民）をその中心的な構成員とする新しい活動のあり方が構想できるのではないだろうか。それは既存の地域ネイチャーゲームの会の活動と対抗するものではなく、むしろ地域ネイチャーゲームの会の新事業として位置づけられるべきものであろう。

以上述べた点を踏まえ、筆者らは今年度から新たな取り組みをはじめている。まだ結果を論じる段階には程遠いが、全国研究大会当日は、上記の基本的な考え方の説明に加え、この取り組みの概略についても一部報告したい。

2006年度地域子どもネイチャーゲーム教室開催場所

教室名	開催会場	開催回数	継続
仙台市（八木山）子どもNG教室	（財）仙台ひと・まち交流財団　八木山児童館	24	続3
仙台市（南中山）子どもNG教室	（財）仙台ひと・まち交流財団　南中山児童センター	24	新
みと子どもNG教室	茨城県植物園	24	続2
水戸市茨城大学子どもNG教室	茨城大学	24	続3
町田子どもNG教室	町田市立木曽境川小学校	24	続2
大宮の森子どもNG教室	大宮の森	30	新
北葛西子どもNG教室	宇喜田中央公園	15	新
河口湖子ともNG教室	中央公民館および子ども未来創造館	15	新
戸隠子どもNG教室	戸隠高原自然学校	24	続2
羽咋市ちびっ子自然センター子どもNG教室	羽咋市ちびっ子自然センター	24	続2
中津川市子ともNG教室	苗木コミュニティセンター	24	続3
沼津子どもNG教室	松長集会所及び神妙宮神社	24	続2
浜松地域子どもNG教室	浜松市内野上公会堂	24	続3
掛川子どもNG教室	掛川B&G海洋センター・子どもの森	24	続3
伊豆市子どもNG教室	大川端の森	24	続2
名古屋市子どもNG教室	名古屋市名東区猪高緑地及び名東生涯学習センター	24	続2
亀山市子どもネイチャーゲーム教室	石水渓野外研修施設周辺	24	続3
四日市市桜子どもNG教室	三重県環境学習情報センター	24	続2
大津子どもNG教室	坂本教育集会所	24	続続2
京都市北子どもNG教室	京都市北青少年活動センター	24	続続2
守口市子どもNG教室	一乗寺学園	20	続3
大井戸公園子どもNG教室	大井戸公園	24	続3
宝塚市子ともNG教室	高司児童館	24	続3
伊丹市子どもNG教室	伊丹市立子ども文化科学館	20	続続2
橿原畝傍子どもNG教室	畝傍自然教室（橿原市山口畝傍山西麓）	24	続3
奈良市なら環境教育交流館子どもNG教室	なら環境交流館とその周辺	24	新
御所市子どもNG教室	御所市中央公民館	24	続3
五條市子どもNG教室	五條市上野公園	24	続続2
東生駒子どもNG教室	スペースRIN	44	続2
松江市子どもNG教室	松江市立東津田児童館	30	続2
宇部市子どもNG教室	二俣瀬ビオトープ	24	続3
きらら子どもNG教室	山口県きららスポーツ交流公園	24	続2
下関一里山子どもネイチャゲーム教室	下関市立青年の家	24	続3
美和町子どもNG教室	なごみ広場	24	続3
光市子どもネイチャーゲーム教室	周防の森ロッジ	24	新
王子の森子どもNG教室	王子の森公園	24	続2
春日市子どもNG教室	春日市　白水大池公園	24	続2
くるめ山川子どもNG教室	山川校区公民館	24	新
東与賀町ふれあい子どもNG教室	東与賀町文化ホール　ふれあい館	24	続2
神崎町すぎの子文庫子どもNG教室	すぎの子文庫	24	続2
地域子どもNG教室「かわそえ」	川副町児童館	24	続2
（仮称）多久の里山子どもNG教室	横柴折公民館	24	新
嬉野子どもNG教室	楠風館/和泉式部公園	24	続2
長崎ペンギン水族館子どもNG教室「自然学校」	長崎ペンギン水族館	24	続3
長崎市ほくよう　子どもNG教室	長崎市立北陽小学校	24	新
水俣市子どもNG教室	グリーンスポーツ水俣	24	続3
八代市子どもNG教室	氷川台公園	24	新
宮崎市子どもNG教室	宮崎県立平和台公園	24	続2
西谷山小子どもNG教室	西谷山小地区公民館	24	続2
かごしま吉野エコクラブ　NG教室	鹿児島市立吉野小学校	24	続2
自遊の森　子どもNG教室	よしだ自遊の森	24	続2
大崎子どもNG教室	大崎町中央公民館	24	続2
どんぐり子どもネイチャーゲーム教室	どんぐり谷遊房	24	続2
出水市子どもNG教室	出水児童クラブ（予定）	24	続2
阿久根市子どもNG教室	鶴川内児童クラブ	24	新
南さつま市子どもNG教室	加世田サンユウ児童クラブ	24	続2
かのや子どもNG教室	和田井堰公園	30	続2